



寄り添う心  
つながる手

心がいっぱい  
朝日町ボランティア  
マスコット  
ハートフルちゃん

ふれあいネットワーク

# ハートフル通信

オール朝日町で支え合う 安心生活のまちづくり(町社協の基本理念)

令和8年2月1日

第32号

編集・発行  
朝日町社会福祉協議会  
富山県下新川郡朝日町泊418  
tel.0765-83-0576  
fax.0765-83-1589  
https://asahiwel.com

特集

## 同じ町に暮らす人を想う～福祉教育～

**福祉教育とは、**年齢、障がい、国籍や文化の違いに関わらず、誰もが安心して暮らせる社会について学ぶ活動です。相手の気持ちに寄り添い、「自分にできることは何か」を主体的に考える力を育みます。これは決して特別な誰かのための学びではなく、一人ひとりが思いやりの心を持つことで、誰もが住みやすい社会をつくる第一歩となります。

この度、さみさと小学校4年生の担任の先生より「朝日町で暮らす人々との交流を通じ、福祉について深く考えたい」とご相談をいただきました。今回は、その相談から始まった交流内容や学校での取り組みについてご紹介します。

### 相手のことを知る

現在、インターネットで検索すれば、高齢者や障がいのある方の特徴について、ある程度の知識を得ることはできます。しかし、一人ひとりの暮らしや感じ方は決して同じではありません。

そこで、地域住民の皆さんの「リアルな暮らし」に触れる機会として、ふれあい・いきいきサロン(以下、サロン)に通う高齢者の方々や、視覚障がいのある方に小学校に来ていただきました。

子供達は、普段の生活やその人の人生について直接お話を聞いた後、さらに休憩時間も自ら進んで質問を投げかける姿が見られ、対話を通じて交流を深める貴重なひとときとなりました。

### 交流する

#### ①レクリエーション(紙コップリレー)

高齢者の方と一緒に道具作りから行うレクリエーションで交流をしました。自分で作った道具をもとに、紙コップを隣の人へ繋いでいきます。大切なことは、自分のペースだけでなく、次に受け取るのことを考えることです。自然な形で相手のことを思いながら交流することができました。

#### ②サウンドテーブルテニス

全国障害者スポーツ大会の競技のひとつで、球の中に入っている4つの金属粒が鳴らす「音」を頼りに、ネットの下を通過させて打ち合います。今回は、日頃からこの競技を楽しんでいる視覚障がい者の舟川さんに講師を務めていただき、視覚以外の感覚を研ぎ澄ませてプレーする難しさと楽しさを体感しました。



## 知ることから始まる思いやりー新たな視点ー

### ●赤ちゃんについて



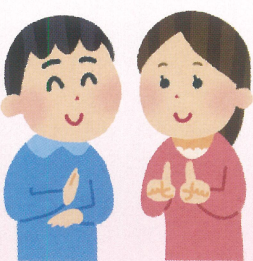
子育て支援センターで行われている赤ちゃん広場に参加し、助産師の水井さんや保育士さんから乳児について話を聞いたり、生後2ヵ月から1歳までの乳児とそのお母さんとのふれあいを見学したりしました。乳児の特技やチャームポイントをたくさん知ることができました。また、参加者全員が赤ちゃんの可愛さに癒されました。

### ●高齢者について



「今度はサロンへ行ってみよう」との意見から、サロンに子供達が参加しました。子供達が相手のことを考えて交流内容も考えました。ジェスチャーゲームや折り紙で楽しく交流できました。また、お話をするなかでお買い物に行くことが運動になることや、自分でできることがたくさんあるが、除雪が大変なことなどを聞いて新たな発見がありました。

### ●聴覚障がいについて



イヤーマフを用いての会話や手話の学習を通じて、聴覚障がいのある方の状況を深く考えるきっかけを得ることができました。手話を覚える大変さと同時に、手話を覚えるまではどのようにコミュニケーションを取っていたかなど、新たな気づきが芽生えました。

### ●身体障がいについて



身体障がいについて調べている子供達と義手を使用して生活している加藤さんが交流をしました。義手を使用することになったきっかけや、それに伴う気持ちの変化など、加藤さんの人生について聞くことができました。ご自身でできることが理解できたと同時に、町で身体障がいを抱えた方と出会ったときに気に掛けたいことも見つかりました。

### ●視覚障がいについて

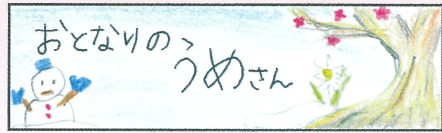


前回、交流した舟川さんに感謝の気持ちを伝える手段を考えたい子供達は、音声メールを送ったり、点字で文通をしてさらに交流を深めました。相手に伝わる形を考えて、気持ちを届けることができました。

### 福祉教育を終えて～ボランティアコーディネーターの思い～

同じ町に住むいろいろな方の協力のもと、子供達が様々な体験をすることができました。対面でしか分からないこと、言葉を交わさないと分からない相手の思いがたくさんあります。今回の新たな出会いが子供達の気づき、そして、誰かを想う気持ちの育みになったらと思います。場を設けました。福祉教育にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。





## お知らせ 地域福祉講座 「ケアネット活動を通じた支え合いのまちづくり」

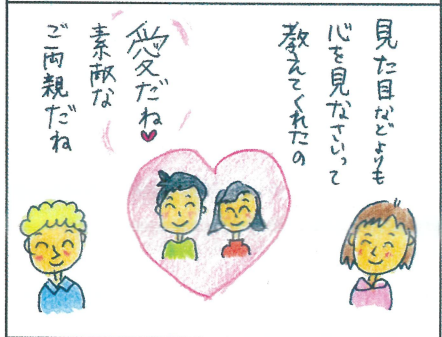
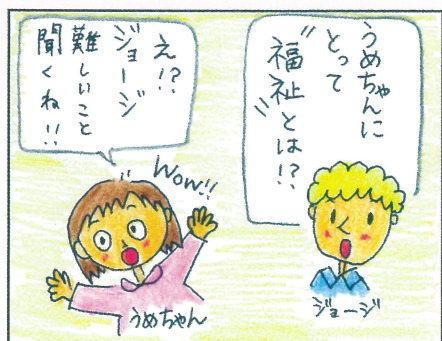
住み慣れた朝日町でこれからも安心して暮らすために、町民の一人ひとりが、この町の支え合いや繋がりを認識して、それを「我が事」と捉え育むことが必要となります。当講座は町民に向けての福祉教育として、ケアネット活動为基础とした地域福祉活動を学び、日頃の支え合いや繋がりを醸成する機会とするため開催します。

- 日時 3月14日(土) 10時~12時
- 会場 五叉路クロスファイブ2階 会議室
- 内容 地域の支え合いについて町内の事例をもとに考えます
- 参加費 無料
- 参加者 地域福祉に興味がある方
- 申込方法 申込みフォームまたは申込書・電話・FAXなどでお申し込みください。
- 申込締切 3月3日(火)

問い合わせ・申込み先 朝日町社会福祉協議会 TEL 83-0576 メール下記参照



申込みフォーム



## 報告 朝日中学校 「14歳の挑戦」について

～住み慣れた町の見え方が変わる～

令和7年9月30日から10月3日までの4日間、「14歳の挑戦」として、朝日中学校の生徒2名が社会福祉協議会にて職場体験を行いました。期間中は、本会が実施しているさまざまな事業に同行し、実際に地域を回りながら住民の方々と交流しました。生徒たちは、「街頭募金活動では誰かのことを想って大勢の方が募金してくれたことに驚いた」ようです。住民の方々と直接関わることで、教科書だけでは学ぶことができない「地域福祉」の重要性や、互いに気に掛け合っているからできる支え合いを知ることができました。この体験が、自分たちの住む地域に目を向けるきっかけとなり、将来の糧になれば幸いです。温かく迎え入れてくださった地域住民の皆様、ご協力ありがとうございました。



## 報告 障がい者スポーツ体験交流会

令和7年11月8日、朝日まちなか体育館にて「やってみよう! フライングディスク・スクエアポッチャ」を開催しました。当日は、朝日町身体障害者協会や、朝日町視覚障害者協会、新川ろう連合会、福祉施設利用者の皆様、一般参加者や小学生など、計31名が参加されました。パラスポーツ指導員、手話通訳者、ボランティアの方々の協力のもと、スポーツを通じた温かい交流の場となりました。

今回は新たな試みとして「スクエアポッチャ」を導入しました。これはパラリンピック正式種目のポッチャをベースに、2018年に誕生した新競技です。正方形のコートで4チームが同時にプレーでき、年齢や障がいの有無、体力を問わず誰もが主役になれるのが特徴です。

競技が始まると、同じチーム内での応援はもちろん、交流を通して仲良くなった他チームの方へも声援が送られるなど、会場は大いに盛り上がりました。社会福祉協議会としては、今後も参加者の皆様が楽しみながら自然とお互いへの理解を深められるような機会を、継続してつくりたいと考えています。



## 朝日町社会福祉協議会 賛助会員を募集中!

賛助会員とは、朝日町社会福祉協議会が進めている地域福祉活動に賛同し、資金面で応援いただく「社協サポーター」です。皆さまからのあたたかな応援をお待ちしています。

- 個人 1,000円 (一口) ●団体 2,000円 (一口) ●事業所・企業 5,000円 (一口)
- ※いずれも年度毎の募集となります。なお、事業所・企業からの会費は「寄付金」として取り扱います。

**賛助会費の納付先**  
北陸銀行 泊支店 普通口座 口座番号 1010310  
名義 シャカイフクシハウジン アサヒマチシャカイフクシキョウギカイ  
※お振込の際の振込手数料は、「受取人負担」をご指定ください。  
なお、直接、朝日町社会福祉協議会事務所へご持参いただいても結構です。



～収集ボランティア活動～  
ご協力ありがとうございました  
◆匿名の方々から、たくさんのご寄付をいただきました

**編集後記**  
今回の福祉教育で、相手のことを一生懸命に調べ、対面した際に「もっと知りたい」と質問を重ねる子供たちの姿に触れました。誰かを気に掛け、歩み寄ろうとする純粋な想いが、相手のことが分かるにつれて「思いやり」になっていくのだと感じました。今号が、皆様にとっても身近な誰かを想うきっかけになれば幸いです。(西永)